

平成23年11月12日(土)～13日 山形県天童市 天童ホテル

「命の尊厳 人間としての幸せを今こそ」～東日本大震災を乗り越えて～ 家族会4名出席

1日目 基調報告 「地域ケアシステムと介護保険法改定」 講師 廣末 利弥 氏

\*来年度の介護保険改定に向けた老福連の役割と将来の展望についての問題提起。

記念講演 「命の尊厳—平穩死を考える」 講師 石飛幸三 氏

医療技術の進歩に伴い、老衰に伴う病態も延命治療が行われています。国民の80%が胃瘻を望まないとしていますが、老衰の80%に胃瘻が造られてるのが現実です。高齢者の楽しみは美味しい物を食べることです。老衰の最後は水や栄養を吸収できなくなります。老衰は食べられなくなるから死ぬのではなく、枯れて行くのが大往生＝「平穩死」なのです。

\*命の尊厳—平穩死とは何か「老衰末期における医療過信を問う」を柱に講演していただきました。

〈著書〉「平穩死」のすすめ—口から食べられなくなったらどうしますか  
(講談社)

特別報告 災害時に社会福祉法人が果たす役割～東日本大震災の報告～

講師 小野 ともみ 氏 (宮城野の里 施設長)

高齢者福祉施設「宮城野の里」は、仙台市東部での津波被害地域に最も近い場所に位置する施設です。震災翌日より地域包括支援センターを先頭に被災地域に入り、地域の要望を聞き取りながら、被災者のニーズを把握する作業をはじめました。救援活動に奔走する中、家屋流出などの被災を受けた高齢者や認知症を抱えた高齢者が、居場所さえないまま一般の避難所に身を寄せているという現実問題に直面。直ちに受け入れ先を確保する必要性を痛感し、施設に「福祉避難所」を開設することにしました。

\*わが国の地震は活動期に入り、いつどこでも大きな地震が起きても不思議ではないといわれています。あの日施設が置かれた状況を報告していただき、私たちが災害時にどういった役割を果たすことができるのか、被災地の発信から学ぶことができました。

2日目 分科会 25分科会 149レポート発表

家族会では3つの分科会に参加。2つのレポート発表をしました。

〈 基調報告 〉

〈 交流会 〉

